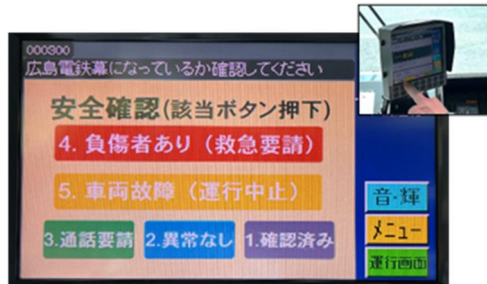


業 種	自動車（バス）
取組分野	重大事故等への対応（自然災害）
テ ー マ	利用者と一緒に行う発災に対する感受性向上のための訓練の実施
取組の狙い （目的）	地震・津波などの大規模災害（南海トラフ地震）の発生を想定し、大規模災害基本対応マニュアルに基づいた訓練を利用者と一緒の実施し、有事の際に落ち着いた行動と的確な指示が行えるようにする。
具体的内容	広島電鉄株式会社バス事業本部では、毎年、午前・午後の2部構成による災害発生時対応訓練を実施している。 （午前）現場管理者である営業所長や主任等を集めて南海トラフ地震を想定した図上訓練を実施 （午後）現場社員に対する実地訓練として、以下の訓練を実施 ①バスロケーションシステムを活用した訓練 ②アンピック（安否確認システム）による安否確認訓練 ③非常用電源（発電機）の使用 ④Zoom 会議を活用した連絡、情報共有訓練 ⑤お客様や社員の高台への避難訓練（シミュレーション） ↓ バスロケーションシステムを活用した訓練 ・異常を感じた際には、まずは「一旦停止」を行い、安全を確保した上で落ち着いた対応を行うといった手順の確立が重要との認識 ・大規模災害時における「事象の発生」→「一旦停止」→「安全確認」までの対応強化・浸透を図るため、<u>営業（客扱い）中を含めた全ての運行車両</u>を対象とした訓練を継続して実施 【具体的な訓練内容等】 (1) 訓練内容 ①各営業所から大規模災害発生 of 無線を担当路線の全車両に送信（お客様にも聞こえる音量） ②災害情報を受信した乗務員は、乗客に対し「お客様にお知らせします。大規模災害の訓練を行います。お急ぎのところ申し訳ございませんが、次のバス停に停車して安全確認を行います。」をアナウンスし最寄りのバス停に停車 ③乗務員は、安全確認（バスから降りて、バス周囲と道路状況）及び近くに3階建以上の建物がないかをチェック、安全確認等ができ次第バスロケ画面の「異常なし」ボタンを押して営業所に通知、運行再開（所要時間：1～2分）

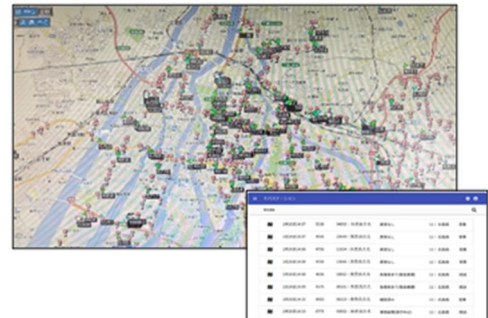
④営業所管理者は、バスロケモニター等で被災状況を把握し、災害対策本部バス安全指導課に報告

⑤乗務員は運行終了後、大規模災害確認シートの各項目を記入し管理者に提出

バスロケ(確認画面)



営業所バスロケモニター



(2) 訓練後の振り返り

- ・ 訓練後には、営業所ごとに実地訓練全般に係る反省会を実施し、実施結果や課題等を本社バス安全指導課に報告
- ・ バス安全指導課では営業所の報告を受けて、次年度の訓練に反映

営業所の課題・感想の例

- ・ 管理者が少ない深夜や早朝に発生した場合の対応の検証が必要
- ・ 標高の低い営業所では、情報収集及び指示と併せて管理者自身の安全確保も重要
- ・ 津波被害が想定される基地局は2階以上にもバスロケ等の通信機器の設置が必要
- ・ 無線が入り難い場所がある
- ・ 乗務員は落ち着いて行動してくれたが、実際の災害時においても現場で同様の行動ができるよう、今後も鍛錬が必要

(3) 訓練の予告や利用者からの反応

- ・ 予め利用者に訓練の趣旨やスケジュールを周知
- ・ 利用者からは、運行遅れについての厳しいお声をいただくことがある反面、「このような訓練はいいことですね。何かあったら運転士さんに任せるしかありません」「毎年やるの、何をするの」と興味を持たれる方もいる

訓練実施の周知文

お知らせ

大規模災害訓練の実施について

いつも広電バスをご利用いただき、ありがとうございます。
広電バスでは、大規模災害が発生した際の安全の確保、防災、減災のため、下記のとおり災害訓練を実施します。
お客様には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

＜訓練実施日＞

2025年2月26日(水)

午後14時00分～15時00分の間

＜訓練内容＞

- ① 大規模災害訓練の無線連絡が送信されます。
- ② バスは、最寄りのバス停に停車いたします。
- ③ 安全確認後、営業所に報告を行い、運行を再開いたします。

取組の効果	【取組の効果】 ・乗務員の防災意識の更なる向上に役立つ。 ・大規模災害基本対応マニュアルに基づく迅速な初動対応の実効性が確認できる。 ・営業中に実施することから、乗務員のモチベーションがアップする。 ・営業中に実施することから、利用者に対し事業者の防災に関する姿勢を示すことができる。 ・防災の取組み姿勢を示すことにより、利用者に安心感を与え、自社の信頼性の向上に繋がるとともに、万が一の際には、利用者に共助の意識が働くことが期待できる。 【今後の課題認識】 ・乗務員の自主判断能力（自主的に行動できるスキル）の向上が重要 ・シンプルで明確なガイドライン（マニュアル・チェックリスト等）の策定と共有が重要 ・リアルタイムで状況を把握し、確実に共有する体制の整備が重要 ・管理者個別の役割分担を明確にし、訓練を通じてその役割を習得し、災害時の混乱の防止に努める
事業者名	広島電鉄株式会社 バス事業本部 バス企画部バス安全指導課 （連絡先：０８２－２２１－４３８４）